

慶應義塾大学医学部小児科 専門研修プログラム

2021年度 専攻医募集

説明会について

COVID-19 流行に伴い、大規模な説明会や病院見学を開催することが困難な状況にあります。そこで、三密を避けるため参加者数を限定した説明会を複数回開催することになりました。実際に会場へお越しいただければ、当科の雰囲気を直接感じ取って頂けると思います。また、直接参加を避けたいとお考えの方のためには Web 配信による説明会も同時開催します。

会場、日程は以下の通りです。詳細については慶應小児科ホームページ (<http://pedia.med.keio.ac.jp>) をご確認ください。

会場：慶應義塾大学病院内の新教育研究棟2階講堂(JR 信濃町駅下車 徒歩 3分)

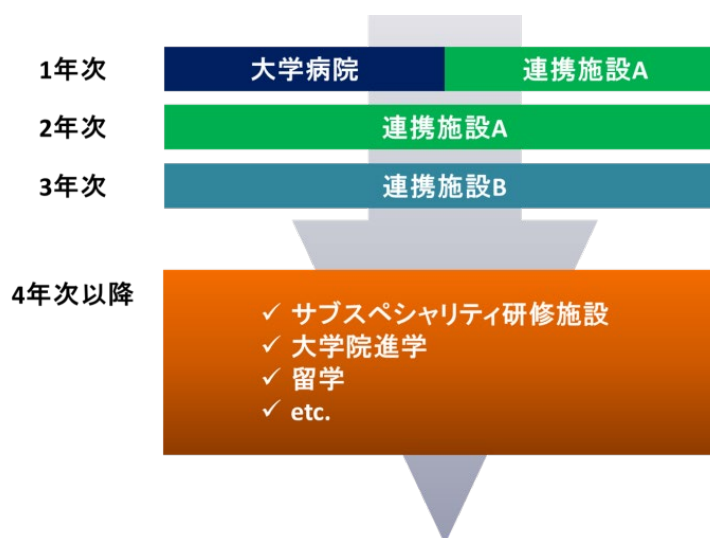
第1回 2019年7月18日(土) 午後5時
第2回 2019年8月15日(土) 午後5時
第3回 2019年9月19日(土) 午後5時

まずは以下までご連絡を！

専攻医担当主任 古道一樹 (kazukikodo.a3@keio.jp)

1. 研修プログラムの概要

小児科医の育成に多くの実績を持つ小児科学教室が全力を挙げて取り組む、優れた子どもの総合医(小児科専門医)を目指すプログラムです。優れた子どもの総合医とは、医療人として幅広い知識、高度な技術、優れた問題解決能力を持ち、教育人として同僚・後輩や学生に積極的に指導し、社会人として常識、人間性、コミュニケーション能力を身につけた人材を指します。この研修を支えるのは、幅広い小児科領域の13のサブスペシャリティグループです。どのような病態、疾患についても指導が受けられます。また、3年間の専攻医研修の後には、すべての方が筆頭著者で論文を執筆し、小児科専門医資格試験を受けるとともに、13グループの中からサブスペシャリティを選択し、さらなる専門研修に進んでいただきます。プログラムの構成は、個人個人の多様なキャリアパスに柔軟に対応できるよう配慮されており、学位取得などの研究を希望する人には、大学院に入学する機会が用意されます。また、海外留学も積極的に支援しています。10年先20年先の自分を想像し、多様な子どもの総合医を育てる本専門研修プログラムにぜひ応募して下さい。



【研修プログラムの例】

2. アピールポイント

1) 大学病院と市中病院の双方で研修

1年次の研修開始前に、全ての専攻医に3年間の研修コースを提示します。これにより、3年次までを見据え、計画的に研修を始めることができます。1年次の前半ないし後半の6か月間を慶應義塾大学病院で、その他の2年半を連携する市中病院で研修していただきます。連携する市中病院は、首都圏を中心とした18の地域中核病院です。大学病院では専門性の高い疾患を深く学び、市中病院では common disease を幅広く学ぶなど、双方の利点を生かした研修ができることが特徴です。

【2021年度専門医研修連携施設】

東京都立小児総合医療センター、独立行政法人国立病院機構東京医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、独立行政法人国立病院機構栃木医療センター、済生会宇都宮病院、足利赤十字病院、佐野厚生総合病院、さいたま市立病院、独立行政法人国立病院機構埼玉病院、東京歯科大学市川総合病院、一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院、横浜市立市民病院、川崎市立川崎病院、平塚市民病院、日野市立病院、新百合ヶ丘総合病院、静岡市立清水病院



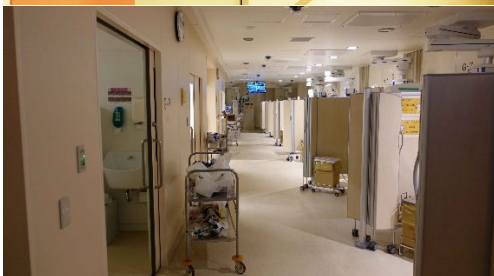
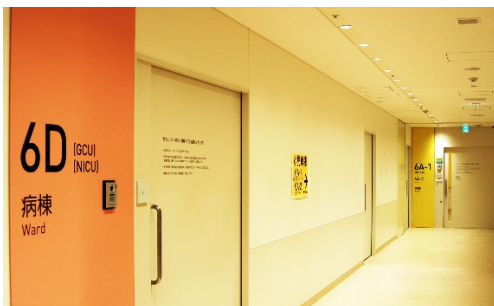
【首都圏を中心とした18の連携施設】

2) 半学半教の精神

誠実で優しい指導医が、小児医療を”イロハ”から教えてくれます。専攻医自身も医学生や初期臨床研修医の指導に参加して、効率よく学習していただきます。学びながら教え、そして教えながら学ぶことにより理解を深めていきます。

3) ソフトとハードの充実

慶應義塾大学病院での研修場所は、周産期・小児医療センターです。NICU, GCU, PICU および産科ICUを完備した一つのフロアが、集学的な成育医療を提供するセンターを構築しています。産科、小児の内科系・外科系診療が連携した全人的・包括的な医療を提供し、小児科医としては理想的な研修環境です。2018年5月から全面リニューアルした最新の施設で、ぜひ充実した研修生活を送って下さい。



【周産期・小児医療センターの風景】

4) 多彩なサブスペシャリティ

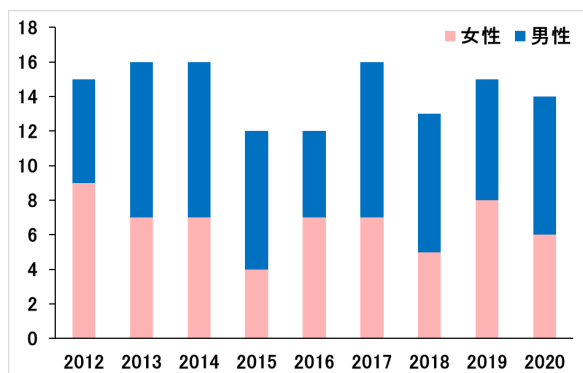
慶應義塾大学小児科学教室は、伝統的に全ての疾患分野に対して、専門医を育成していく教育を続けてきました。その歴史から、当教室では各分野のスペシャリストがその専門的知識・経験を生かした専門班を形成しています。さらには各専門班間での連携を密にとり、多種にわたる小児疾患をくまなく網羅した集学的医療を提供できる体制を整えています。このようなシステムにより、3年間の専攻医研修期間を通じて、またその先のキャリアデベロップメントにおいて、小児科のほとんどすべての領域の指導医から、丁寧な指導を受けることができます。4年次以降のサブスペシャリティ選択の際にも、幅広いニーズにお応えします。



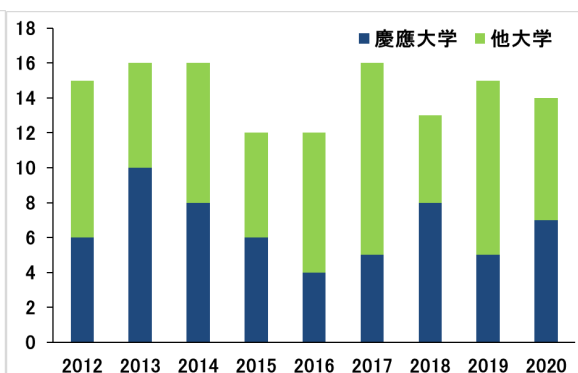
【13のサブスペシャリティ】

5) 多くの仲間と楽しく研修

我々のプログラムには、毎年多くの新人が加入してくれています。大勢の同期とともに、互いに助け合いながら楽しく研修に励むことができます。男女比は半々、半数は慶應大学以外の出身者です。また、女性医師の産休や育休期間についても、キャリアが繋がるように支援してします。休業中も e-learning システム(ホームページ上で公開、要パスワード)を用いて、ご自宅で勉強を継続することができます。



【過去の専攻医(男女別)】



【過去の専攻医(出身大学別)】